
名前のない絵本

クノウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

名前のない絵本

【Nコード】

N1308A

【作者名】

クノウ

【あらすじ】

最終兵器彼女と「きみのカケラ」の世界を繋げたストーリー。

これは、遠い遠い昔のお話

この世界がまだ壁に囲まれていなかった頃の、それよりもずっとずっと昔のお話。

そのころの世界は、今とは違い至る所に緑が生い茂り、綺麗な水で溢れ、多くの生き物がいて、とても平和な世界でした

でも、それは人の目に見える

比較的平和なところのこと

見えないところでは……

信じる物の違い、血の違い、住む場所と住みやすさを求めて、より偉くなりたい、などと自分勝手な理由でずっと国同士で争いが続きました。

その争いは、初めは小さかったかもしれませんが、でも、少しずつ、少しずつ、確実に大きくなっていました。

それでも、まだ争いを止めようとする人たちのおかげで歯止めがかかっていました。

ところがある時、その争いの均衡が破れてしまいました。

きっかけは、ほんのささいな ほんの数人の人間のわがままでした。

ただ、自分の欲望を満たして良い思いをしたい……

ただ、自分の国や民族の人たちだけが選ばれた人間……

そしてその人間達は色々な悪いことをした。

多くの貧しい者は苦しみ、我侭な人とその周りの人たちだけが裕福な生活をしました。

当然そんな我侭な人たちに人々は反発しました。

初めは微々たる反抗でした。でも、次第に国のみんなが立ち上がり我侭な人たちを脅かせていきました。

こちらがどんなに暴力で騒動を静めようとしても、静まるどころか遥かに大きくなっていきました。

そして、どんどんその運動は広まり、周りの国々もそんな彼らを救おうとしました。

我儕な人間達は恐れました。

いままで自分達がやってきたことを考えると、その“仕返し”が、怖かったのです。

そして我儕な人たちは、追い込まれた末に手を結びました。

仲間になることで、“チカラ”を大きくしてまたみんなを支配しようとしたのです。

そしてついに彼らは世界に向けて戦いを仕掛け始めました。

そうしてこの悲しい戦争は始まっていったのです。

戦争はとても……とても、悲惨でした。

世界で禁止されていた危険過ぎる兵器も次々と使われ、世界は壊れていった。

街が無くなり、山が無くなり、国が無くなり、全てが無くなっていた。

負けそうな人々、もっと強くなりたい人達は、次第に形振り構わず恐ろしい兵器を生み出していきました。

核や放射能はもちろん、細菌兵器、ロボット……ついには生物兵器をも生み出していきました。

生物兵器は、それはとても恐ろしく便利なものでした。

なにせ、困難な環境でも行動でき、病気にもならない。自分の意思で行動でき、脳を操作してしまえば反抗もしない。

自然といろんな動物の兵器ができました。

もともと動物が持つ人間以上の力、運動能力、感覚、爪や牙といった能力を兼ね備えた、まさに理想のような兵器でした。

やがて、ある小さな国が究極とも言える生物兵器を作り出しました。その兵器は戦えば戦うほどどんどん強くなり、どんな攻撃でも倒せず、どんな兵器、武器でも傷をつけられなくなりました。

それでも戦いは終わりません。

兵器は戦いました。守るために、守りたい人のために懸命に戦い、

そしてついには、世界を……地球を滅ぼせる力を持っていきました。

でも、その兵器はとても優しい心を持っていました。なぜなら、その兵器は元が人間だったからです。

その兵器は、人々に争いをやめるよう呼びかけました。しかし戦争は終わりません。

欲望に駆られ、自分では戦わず国民に戦わせていた愚かな人間達には、戦争のつらさ、悲惨さ、無意味さを訴える声が届かなかったのです。

何のための戦いなのか？何も知らずに、多くのかわいそうな人が次々と死んでいく中、その兵器は考えました。

『どうすれば、戦争が終わるのだろう』と……でも、それは遅すぎました。

この星は長引く争いの中で使われ続けた兵器のせいでボロボロになり、とうとう限界に近づいてしまったのですから。

『もうじきこの星は滅ぶ』兵器はそれを感じ取り、とても悲しかったです。

自分は一つでも多くの命を守りたいと思って戦ってきたのに、結局はみんな死んでしまうのですから。

そして決断しました。

この星が終わるときには、みんなに辛い思いをさせずに“終わり”を与えようと……

それから一月もしないうちに、滅びの日はやってきました。

終わりが来るというのに、未だに可愛そうな人たちは戦い続けていました。

何のために戦っているのか？

別に憎くもない相手と、なんで戦うのか？

戦いのこの先にあるものは？

それを何も知らずに、ただただ相手を殺すために。

そして、終わりの朝が来た……

真っ赤な朝焼け

大地震

そして大きな津波

兵器は、もてるすべての力を使ってみんなを“苦しみ”から守りました。

ただ一人を除いて……

その一人とは、兵器にとつてとても大切な人でした。

最後まで一緒に生きようと、約束してくれた人でした。

でも、大切な人も人間です。兵器の自分とは違う。

やがてその人は死に、兵器は一人ぼちになりました。

兵器はとても悲しみました。『自分には何もできなかった』と。

これだけの力を持ちながら自分には、壊すことしかできない。本当に大切な人たちを守れたのだろうか？

しかしそこで奇跡が起こりました。

兵器の体にはありえない“破壊”ではなく“創る”力が兵器に備わったのです。

それは、兵器の大切な人が与えてくれた最後のプレゼントでした。

兵器はさっそく、いくつかの希望と“人”を創り出しました。

自分達と同じ過ちを犯さないように願いを込めて。

兵器はそこで長い生涯を終えました。

やっと兵器から開放され、“人間”として、一人の女の子として、大切な人と一緒になることができたのです。

ところがその星は、戦争の影響でもう人の住める場所ではありませんでした。

毒が溢れ、空気は穢れ、大地は死んでしまったように草木の一本も生えませんでした。

人々は、なんとか人間が住めるような場所にたどり着くと、外との境に壁を作りました。

そうして外の毒を防いでいるのです。

そのため、今でも壁の外には恐ろしい毒や怪物が蠢いている……

でも、この世界のどこかには兵器が残した“希望”が残っています。それはこの世界のどこかに必ず……人が希望を忘れぬ限り、この世界のどこかで希望は待ち続けているのです。

いつか、その日が来るのを。

人が自分を見つけ出してくれる事を。

……。
……。

「はい、これでお終い。」

「ねえ、母ちゃん？」

「なんだい？」

「その“いくつかの希望”ってなんだべ？」

「さあ？何かしらね。あなたはなんだと思う？」

「うーん……きっと宝物だ！！」

「どんな宝物かしら？」

「優しい兵器さんは希望を残してくれたんだろ？きつとどんな宝石やお金よりも価値のある宝物に違いないべ！！きつとみんなが必要とするものだ！！」

「どうしてそう思うの？」

「だって、その兵器さんは優しい心を持ってたんだろ？なら、きつとみんなが困ったときに役に立つような物も創ってくれたと思うんだ！！」

「あら、このお話は嘘かもしれないわよ？」

「それでもいいんだ。これはオレの夢だから……」

「ふふっ、叶うといいわね。」

「ああ、叶えてみせるわ！！」

「あんたはどんな宝物だと思う？」

「オレは“太陽”だと思う！！」

「太陽……？」

「だって、太陽さえあればこの国だって助かる。もしかしたら壁の外にだって行けるかもしれないね。そんなもんを、優しい兵器さんが創らないわけねえ。」

それに、父ちゃんだって太陽の研究をしてるんだろ？本に書いてあるんだから、きつとどこかにある。オレも大きくなったら、父ちゃんの手伝いして太陽を見つけるんだ。」

「そうね……きつと何処かにあるわ。じゃあ太陽を見つけるには、もっと頑張って勉強しないとね。」

「ああ、オレ頑張って勉強する！！そして、そして……」
スースー……

「あら、もうこんな時間？疲れて寝ちゃったのね。」
ふと窓の外を見る

「そうね、この子なら“太陽”を見つけ出せるかもしれないわ……
頑張ってたね……………」
ボタンツ…………

数年後

その少女は太陽を求め、この地より旅立って行った。

- 終わり -

（後書き）

これは最彼ときみ力ケを、独自の解釈に基づいて関連付けて書いた物語です。

なので、人によっては変に感じるところもあるかもしれません。

最後に出てくる“少女”がイコロかどうかは、自分でも分かりません。

ただ、その先祖に当たる人物かもしれませんね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1308a/>

名前のない絵本

2010年10月23日05時22分発行